

2020.10.22

コロナは大災害

今年の 4 月に石垣市で最初のコロナ感染者が出る前からコロナは東日本大震災以上の大災害である。これを収束させるには行政と医療機関の協力が不可欠でまた東日本以上の人とお金がかかるようになると言いつけて来ました。

八重山地域では八重山事務所、八重山保健所、石垣市、竹富町、八重山医師会、県立八重山病院、石垣島徳洲会病院、かりゆし病院、海上保安庁、八重山警察、石垣消防などが参加してコロナ対策本部会議が開かれ、情報を共有し、先手先手でコロナの対応が行われて来ました。コロナ感染者が出るとその濃厚接触者を追い続け、最終的にコロナ感染者をゼロにすることがゴールでした。市の福祉センターで電話による相談外来を開設し、全症例の問診内容を医師が確認し、コロナが疑われる症例の PCR 検体採取をその日に実施し、早期にコロナ感染者を特定し感染拡大させないことを実施して来ました。そのため八重山地域ではコロナの市中感染が起こっている可能性はかなり低いと考えています。

市中感染とは特定されないコロナ感染者が常にいるため感染の連鎖が起きている状態です。今、東京では毎日 100～200 人の感染者が報告されていますが、ワクチンや特効薬などが出来ない限りもうこの感染者数がゼロになることはないでしょう。

今回かりゆし病院で起きたクラスターは明らかに持ち込まれたコロナです。早期に気づいて対応したと思っていますが、それでも 21 日までで患者さん 26 名、職員 11 名、計 37 名のコロナ感染者となっています。この対応には国の DMAT 本部 (DMAT: 災害医療支援チーム)、県からコロナ対策本部、県立病院関係 (中部病院や南部医療センターから感染管理看護師)、県立八重山病院、そして石垣市からと早期から多方面より全面支援を頂いています。官民一体となってコロナという大災害に立ち向かっています。そして何としても収束させます。

今回起きたクラスターは今の状態であればどの病院、どの施設でも全く同じことが起こる可能性があります。これを防ぐには密を避け、マスク着用、アルコールによる手指消毒を徹底することです。難しいことは必要ありません。